

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第5517581号
(P5517581)

(45) 発行日 平成26年6月11日(2014.6.11)

(24) 登録日 平成26年4月11日(2014.4.11)

(51) Int.Cl.

A 4 7 J 27/00 (2006.01)

F 1

A 4 7 J 27/00 103H

請求項の数 13 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2009-275318 (P2009-275318)
 (22) 出願日 平成21年12月3日 (2009.12.3)
 (65) 公開番号 特開2011-115372 (P2011-115372A)
 (43) 公開日 平成23年6月16日 (2011.6.16)
 審査請求日 平成24年7月20日 (2012.7.20)

前置審査

(73) 特許権者 000006013
 三菱電機株式会社
 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
 (73) 特許権者 000176866
 三菱電機ホーム機器株式会社
 埼玉県深谷市小前田1728-1
 (74) 代理人 110001461
 特許業務法人きさ特許商標事務所
 (72) 発明者 石井 貴子
 埼玉県深谷市小前田1728番地1 三菱
 電機ホーム機器株式会社内
 (72) 発明者 長田 正史
 埼玉県深谷市小前田1728番地1 三菱
 電機ホーム機器株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】炊飯器の内鍋及びこの炊飯器の内鍋を備えた炊飯器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内壁側面に目盛部を備えた炊飯器の内鍋であって、
 前記目盛部は、複数の屈曲部を有し内鍋の高さ方向に延びるジグザグ形状部を備え、
 前記屈曲部は、所定量を示す位置に設けられている
 ことを特徴とする炊飯器の内鍋。

【請求項 2】

前記目盛部は、所定間隔をおいて左右対称に配置された一対の前記ジグザグ形状部を備えた
 ことを特徴とする請求項1記載の炊飯器の内鍋。

【請求項 3】

前記目盛部は、所定間隔をおいて平行に配置された一対の前記ジグザグ形状部を備えた
 ことを特徴とする請求項1記載の炊飯器の内鍋。

【請求項 4】

前記目盛部は、前記一対のジグザグ形状部で挟まれた領域に前記内鍋の側面とは異なる
 色を付して形成された塗りつぶし部を備えた

ことを特徴とする請求項2又は請求項3記載の炊飯器の内鍋。

【請求項 5】

前記目盛部は、

前記一対のジグザグ形状部の向かい合う方向とは反対側に各ジグザグ形状部に近接して

10

20

設けられた垂直線と、

前記垂直線とこれに近接する前記ジグザグ形状部とで挟まれた領域に前記内鍋の側面とは異なる色を付して形成された塗りつぶし部と、を備えた

ことを特徴とする請求項2又は請求項3記載の炊飯器の内鍋。

【請求項6】

前記塗りつぶし部に付した色と、前記内鍋の側面の色との明度差が、マンセル値における明度差4以上である

ことを特徴とする請求項4又は請求項5記載の炊飯器の内鍋。

【請求項7】

前記塗りつぶし部に付した色が白色である

10

ことを特徴とする請求項4～請求項6のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項8】

同じ高さに位置する一方の前記ジグザグ形状部の屈曲部と、他方のジグザグ形状部の屈曲部との間に、水平線を設けた

ことを特徴とする請求項2～請求項7のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項9】

前記屈曲部の角度が鋭角である

ことを特徴とする請求項1～請求項8のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項10】

前記ジグザグ形状部の前記屈曲部の近傍に、その屈曲部が示す所定量を数値で表す数値表示部を備えた

20

ことを特徴とする請求項1～請求項9のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項11】

前記ジグザグ形状部の各屈曲部は、米0.5合単位の水位を示す位置に設けられている

ことを特徴とする請求項1～請求項10のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項12】

前記ジグザグ形状部の各屈曲部は、米1合単位の水位を示す位置に設けられている

ことを特徴とする請求項1～請求項10のいずれか記載の炊飯器の内鍋。

【請求項13】

被調理物を収容可能な内鍋と、

30

上面が開口されて前記内鍋が着脱自在に収容される炊飯器本体と、

前記炊飯器本体の上面開口部を開閉可能に覆う外蓋と、

前記外蓋に着脱可能に装着され、前記内鍋の上面開口部を開閉可能に覆う内蓋と、

前記内鍋を加熱する加熱手段と、を備え、

前記内鍋として、請求項1～請求項12のいずれか記載の炊飯器の内鍋を用いた

ことを特徴とする炊飯器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内側面に水位目盛を備えた炊飯器の内鍋及びこの炊飯器の内鍋を備えた炊飯器に関する。

40

【背景技術】

【0002】

炊飯器の内鍋等の容器として、内容物の容量を示す水位目盛が設けられたものがある。

従来の炊飯器の内鍋の水位目盛は、水位を示す直線と数字とを組み合わせて構成されていた（例えば、特許文献1参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2002-10906号公報（図1）

50

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

従来の炊飯器の内鍋に設けられた水位目盛は直線と数字とで構成されているが、この水位目盛を使って水加減を行う際に、水位目盛の直線が細いと視認性が悪くなってしまう。一方で、水位目盛の直線を太くすると、直線の上端・中央部・下端のどの位置に水位を合わせればよいのか分からず、水加減が難しい。このため、結果的に正確な水加減を行うことができず、例えば炊飯時の水加減を行う際には炊き上がりのご飯の状態に大きな影響を及ぼすこともあった。

【0005】

10

本発明は、上述のような課題を解決するためになされたものであり、正確な計量を容易に行うことのできる目盛を備えた炊飯器の内鍋及びこの炊飯器の内鍋を備えた炊飯器を提供するものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本発明に係る炊飯器の内鍋は、内壁側面に目盛部を備えた炊飯器の内鍋であって、目盛部は、複数の屈曲部を有し内鍋の高さ方向に延びるジグザグ形状部を備え、屈曲部は、所定量を示す位置に設けられているものである。

【発明の効果】**【0007】**

20

本発明に係る容器の目盛部は、所定量を示す位置に配置された複数の屈曲部を有するジグザグ形状部を備えたので、計量する際に目標となる位置が、屈曲部の1点に定められる。このため、例えば従来のように太い線の水位目盛を設けた場合のような曖昧さを低減することができる。また計量時には、計量対象物の上面が、ジグザグ形状部の辺と交わることとなるので、この交点を確認することでユーザは計量対象物の現在量を容易に把握できる。したがって、正確な計量を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】**【0008】**

【図1】実施の形態1に係る炊飯器の内鍋と水位目盛の説明図である。

【図2】実施の形態1に係る炊飯器の蓋体を開放した状態を示す斜視図である。

30

【図3】実施の形態1に係る水位目盛による水位調整の様子を説明する図である。

【図4】実施の形態2に係る水位目盛の説明図である。

【図5】実施の形態3に係る水位目盛の説明図である。

【図6】実施の形態4に係る水位目盛の説明図である。

【発明を実施するための形態】**【0009】**

実施の形態1.

図1は本発明の実施の形態1に係る炊飯器の内鍋と水位目盛の説明図、図2は実施の形態1に係る炊飯器の蓋体を開放した状態を示す斜視図である。

【0010】

40

(炊飯器の構成)

図2において、炊飯器100は、上部が開口された炊飯器本体1と、炊飯器本体1の上部開口を開閉可能な蓋体2とを備える。炊飯器本体1は、その内部に内鍋10を収納可能な内鍋収納部が形成されている。

蓋体2は、上蓋2aと、上蓋2aとの間にヒータ(図示せず)が設けられた中蓋2bと、ほぼ凹状に形成されて上蓋2aに着脱可能に装着される内蓋2cとを備え、ヒンジ(図示せず)により炊飯器本体1に連結されて、炊飯器本体1の上部開口部を開閉する。内蓋2cの外周側下面には、パッキン3が装着されている。パッキン3は、蓋体2により内鍋10を気密にシールするためのシール部材であり、ゴムなどの弾性を有する素材により構成されている。蓋体2を閉めると、パッキン3の一部が内鍋10の内部上部に入り込んで

50

内鍋 10 と内蓋 2c との隙間を埋め、内蓋 2c と内鍋 10 との密閉性を確保する。

【0011】

上蓋 2a の前面側には係止片 4a が、炊飯器本体 1 の前面側には係止部 4b が設けられており、蓋体 2 を閉め、係止片 4a を係止部 4b に係止することで蓋体 2 と炊飯器本体 1 とがロックされる。

また、炊飯器本体 1 の前面側には操作部 5 が設けられており、ユーザはこの操作部 5 を介して炊飯器 100 に対する動作指示を行うことができる。

【0012】

炊飯器本体 1 の内部には、誘導加熱コイル 6 が設けられている。誘導加熱コイル 6 は、内鍋 10 を加熱する加熱手段であり、炊飯器本体 1 の内鍋収容部の下面近傍に設けられている。また、炊飯器本体 1 の内部には、図示しない制御回路が設けられており、この制御回路は、操作部 5 からの操作指示に基づいて予め格納されたプログラムに従い、誘導加熱コイル 6 の駆動を制御する。また、炊飯器本体 1 の後部側には、誘導加熱コイル 6 等に電力を供給するための電源コード 7 を備えている。10

【0013】

(内鍋の構成)

図 1において、(A)は内鍋 10 の断面模式図、(B)は水位目盛 20 を拡大して示す図である。

内鍋 10 は、側面部 11 と底面部 12 を有するほぼ有底円筒状をなし、側面部 11 の上端部外周にはフランジ 13 が設けられている。また、内鍋 10 の内壁面には、印刷あるいは刻印により、水位目盛 20 が設けられている。なお、本実施の形態 1 では、内鍋 10 の最大炊飯容量が 5.5 合である場合を例に説明する。20

【0014】

水位目盛 20 は、複数の屈曲部 S1 ~ S5、T1 ~ T6 を有するジグザグ部 21a と、ジグザグ部 21a と所定間隔を置いた位置に左右対称に設けられたジグザグ部 21b と、ジグザグ部 21a と 21b とで挟まれた領域に彩色を施して形成された塗りつぶし部 22 と、数値表示部 23a ~ 23e とを備える。

ジグザグ部 21a とジグザグ部 21b は、内鍋 10 の高さ方向に延びる向きで配置されている。ジグザグ部 21a とジグザグ部 21b との間の所定距離は、両者がひとまとまりのものであると認識可能な程度の距離とするが、特に数値を限定するものではない。30

【0015】

ジグザグ部 21a、21b において、これらが互いに向かい合う方向に突出している屈曲部を、屈曲部 S1 ~ S5 と称している。屈曲部 S1 ~ S5 (以下、屈曲部 S と総称する場合がある) は、それぞれ、炊飯する米の量が 1 合、2 合、3 合、4 合、5 合の場合に適量となる水の水位を示している。

また、ジグザグ部 21a、21b において、これらが互いに向かい合う方向と反対方向に突出している屈曲部を、屈曲部 T1 ~ T6 と称している。屈曲部 T1 ~ T6 (以下、屈曲部 T と総称する場合がある) は、炊飯する米の量が 0.5 合、1.5 合、2.5 合、3.5 合、4.5 合、5.5 合の場合に適量となる水の水位を示している。

すなわち、屈曲部 S と屈曲部 T は、0.5 合刻みで炊飯時の水位を示すように構成されている。40

【0016】

また、屈曲部 S と屈曲部 T の屈曲角度は、鋭角となるように構成されている。

【0017】

塗りつぶし部 22 は、ジグザグ部 21a とジグザグ部 21b とによって挟まれた領域に、彩色を施して形成されている。

塗りつぶし部 22 の色は、内鍋 10 の側面部 11 の内側の色との明度差が、マンセル値における明度差 4 以上となるように構成されている。このようにすることで、視覚障害者においても水位目盛 20 の視認性を向上させることができる。

また、塗りつぶし部 22 の色は、白色とすることもできる。このようにすることで、内50

鍋 10 内に水を入れたときに、水面が水位目盛 20 の塗りつぶし部 22 に写り込み、さらに視認性を向上させることができる。

【0018】

屈曲部 S の真横であってジグザグ部 21a、21b の近傍には、数値表示部 23a～23e（以下、数値表示部 23 と総称する場合がある）が設けられている。数値表示部 23 は、ジグザグ部 21a、21b の屈曲部 S が示す水位を数値で表したものである。本実施の形態 1 では、「1」「3」「5」についてはジグザグ部 21a の近傍に、「2」「4」についてはジグザグ部 21b の近傍に表示することで、数値表示部 23 の数値の視認性を向上させている。

【0019】

(炊飯動作)

次に、上記のように構成した内鍋 10 を備えた炊飯器 100 の動作について説明する。

ユーザは、まず、米と適量の水を入れた内鍋 10 を炊飯器本体 1 の炊飯器収容部に収容し、蓋体 2 を閉じる。これにより、蓋体 2 に設けた係止片 4a が炊飯器本体 1 に設けた係止部 4b に係止され、蓋体 2 と炊飯器本体 1 とがロックされる。

次に、操作部 5 の炊飯スイッチを ON すると、制御回路（図示せず）に組み込まれたプログラムにしたがって、炊飯が開始される。炊飯スイッチが ON されるとまず予熱工程が開始され、例えば 40～60 度に内鍋 10 が加熱される。所定の時間が経過すると、炊飯工程に入る。炊飯工程では火力を上げて水を沸騰状態にし、内鍋 10 内の水が無くなるまで沸騰を続ける。内鍋 10 内の水が無くなると、それまでの水の蒸発潜熱で消費されていた熱が内鍋 10 の温度を上昇させることに使われるようになり、内鍋 10 の温度が急激に上昇する。この温度上昇を温度センサ（図示せず）で捉えて所定条件を満たすと炊飯工程を終了し、以後は蒸らし工程に入る。そして、所定の時間が経過すると、保温工程に移行し、炊飯を終了する。

【0020】

(水位調節)

次に、内鍋 10 を使った水位調節動作及び水位目盛 20 の作用について説明する。図 3 は、本実施の形態 1 に係る水位目盛 20 の作用を説明する図である。図 3 において、L1、L2 は水位を、W1、W2 は水位位置における塗りつぶし部 22 の幅（ジグザグ部 21a とジグザグ部 21b との距離）を示している。

【0021】

水位調節を行う際には、まず、研いだ米を内鍋 10 に入れ、その後、炊飯する米の量に応じたおおよその量の水を入れ、続けて、目盛と水位とを見比べながら水を加減するのが一般的である。

本実施の形態 1 に係る水位目盛 20 では、屈曲部 S と屈曲部 T が水位を示す。すなわち、水位を示す位置は屈曲部 S あるいは屈曲部 T の 1 点であって、例えば従来のように太い線の水位目盛を設けた場合のような曖昧さがない。また、ジグザグ部 21 の屈曲部 S と屈曲部 T とを結ぶ辺と水面とが交わることから、ユーザは水面とジグザグ部 21 との交点を確認することで現在の水位を容易に把握することができる。

【0022】

図 3 は、「3合」の位置に水位を合わせる様子を説明する図である。「3合」に水位を合わせる場合、まず、おおよその量の水を入れて水位 L1 とした後、図 3 (B) に示すように「3合」の位置を示す屈曲部 S3 に水位 L2 を合わせるべく、少しづつ水を追加するのが一般的である。このとき、水を追加して水位 L1 を上昇させるにつれ、水位位置における塗りつぶし部 22 上の幅 W1 は徐々に小さくなっていく。この幅 W1 を確認することで、ユーザは水位の上昇度合いを容易に認識することができるので、水位調節を容易に行うことができる。

また、屈曲部 S と屈曲部 T は鋭角に形成されているので、鈍角に形成した場合と比べてジグザグ部 21 を構成する各辺の傾斜が大きい。このため、水量を変化させたときの幅 W1、W2 の変化量が大きく、この幅 W1、W2 を確認することでユーザはより容易に水位

10

20

30

40

50

の変化を確認することができる。

【0023】

このように、本実施の形態1に係る水位目盛20を備えた内鍋10によれば、容易により水位調節を行うことができるので、ユーザの使い勝手を向上させることができる。また、内鍋10によればより正確な水位調節が可能であるので、適切な水量でおいしいご飯を炊くことができる。

【0024】

なお、図1及び図3では、ジグザグ部21や数値表示部23を実線で描いて塗りつぶし部22とは異なる色を付しているように見えるが、これは、ジグザグ部21や数値表示部23を見やすく描くためである。したがって、例えば、ジグザグ部21を塗りつぶし部22と同じ色で構成してもよい。このことは、以降で説明する実施の形態においても同様である。10

【0025】

実施の形態2.

図4は、本発明の実施の形態2に係る内鍋の水位表示部の説明図である。本実施の形態2では、水位表示部について、前述の実施の形態1との相違点を中心に説明する。

【0026】

図4において、水位目盛30は、左右対称に設けられた一対のジグザグ部31a、31bと、ジグザグ部31aとジグザグ部31bとで挟まれた領域に彩色を施して構成された塗りつぶし部32と、数値表示部33a～33cとを備える。さらに、直線部34a～34eを備えている。20

【0027】

数値表示部33a～33c（以下、数値表示部33と総称する場合がある）は、屈曲部Sが示す水位を数値で表したものであり、ここでは「1」「3」「5」の数値を表している。数値表示部33は、対向する一対のジグザグ部31aとジグザグ部31bとの間（すなわち、塗りつぶし部32の上）に設けられている。本実施の形態2では、「2」「4」の数値の記載を省いているが、設けてもよい。

【0028】

直線部34a～34e（以下、直線部34と総称する場合がある）は、対向する一対のジグザグ部31aとジグザグ部31bとの間であって、互いに対応する屈曲部S同士あるいは屈曲部T同士を接続するかのごとく、水平に形成された直線である。30

【0029】

このように構成された水位目盛30においても、前述の実施の形態1と同様の効果を得ることができる。

さらに、直線部34を設けたので、ジグザグ部31a、31bの屈曲部同士の対応関係が明確になる。また、数値表示部33と直線部34により、ジグザグ部31a、31bの屈曲部Sと数値表示部33の数値との対応関係も明確になる。このため、内鍋に水を入れる際、目標とする水位目盛及び現在の水位の視認性が向上し、水加減の調整を容易に行うことができる。

【0030】

実施の形態3.

図5は、本発明の実施の形態3に係る内鍋の水位表示部の説明図である。本実施の形態3では、水位表示部について、前述の実施の形態1との相違点を中心に説明する。

【0031】

図5において、水位目盛40は、左右対称に設けられた一対のジグザグ部41a、41bと、ジグザグ部41a、41bの向かい合う方向とは反対側にジグザグ部41a、41bにそれぞれ近接して設けられた垂直線45a、45bとを備える。また、ジグザグ部41aと垂直線45aとで挟まれる領域に塗りつぶし部46aが、ジグザグ部41bと垂直線45bとで挟まれる領域に塗りつぶし部46bがそれぞれ設けられている。さらに、数値表示部43a～43cと、直線部44a～44eとを備えている。4050

【0032】

数値表示部 43a～43c（以下、数値表示部 43 と総称する場合がある）は、それぞれ、前述の実施の形態 2 で説明した数値表示部 33a～33c と同様の構成である。また、直線部 44a～44e（以下、直線部 44 と総称する場合がある）は、それぞれ、前述の実施の形態 2 で説明した直線部 34a～34e と同様の構成である。

塗りつぶし部 46a、46b は、内鍋の側面とは異なる彩色を施して構成されている。

【0033】

このように構成された水位目盛 40 では、ジグザグ部 41a とジグザグ部 41b とで挟まれた領域に、前述の実施の形態 1 で説明した塗りつぶし部 22 と同様の形状（図 5 の P）を認識することができる。このため、塗りつぶし部 46a、46b のように印刷による塗りつぶし面積を小さくしつつも、前述の実施の形態 1 と同様の効果を得ることができる。また、印刷による塗りつぶし面積を小さくすることができるので、印刷面の擦れやズレなどの印刷不良を大幅に改善することができる。

また、数値表示部 43 と直線部 44 とを設けたので、前述の実施の形態 2 と同様の効果を得ることができます。

【0034】

実施の形態 4。

図 6 は、本発明の実施の形態 4 に係る内鍋の水位表示部の説明図である。本実施の形態 4 では、水位表示部について、前述の実施の形態 1 との相違点を中心に説明する。

【0035】

図 6において、水位目盛 50 は、所定間隔をおいて平行に設けられた一対のジグザグ部 51a、51b と、ジグザグ部 51a とジグザグ部 51b とで挟まれた領域に彩色を施して構成された塗りつぶし部 52 と、数値表示部 53a～53k とを備える。

【0036】

ジグザグ部 51a、51b は、それぞれ、複数の屈曲部 U1～U5、V1～V6 を備えている。なお、図 6において、図面左側に突出する屈曲部を屈曲部 U1～U5、図面右側に突出する屈曲部を屈曲部 V1～V6 と称している。屈曲部 U1～U5（以下、屈曲部 U と総称する場合がある）は、それぞれ、炊飯する米の量が 1 合、2 合、3 合、4 合、5 合の場合に適量となる水の水位を示している。屈曲部 V1～V6（以下、屈曲部 V と総称する場合がある）は、それぞれ、炊飯する米の量が 0.5 合、1.5 合、2.5 合、3.5 合、4.5 合、5.5 合の場合に適量となる水の水位を示している。すなわち、屈曲部 U と屈曲部 V は、0.5 合刻みで水位を示すように構成されている。

前述の実施の形態 1 と異なり、ジグザグ部 51a、51b は平行に配置されているため、塗りつぶし部 52 は全体として稻妻形状で表されている。

【0037】

数値表示部 53a～53e は、ジグザグ部 51b の右側近傍であって屈曲部 U の真横に設けられており、ジグザグ部 51b の屈曲部 U が示す水位を数値で表している。数値表示部 53f～53k は、ジグザグ部 51a の左側近傍であって屈曲部 V の真横に設けられており、ジグザグ部 51a の屈曲部 V が示す水位を数値で表している。

【0038】

このように構成された水位目盛 50 では、ジグザグ部 51b の屈曲部 U が 1 合単位の水位を、ジグザグ部 51a の屈曲部 V が 0.5 合単位の水位を、それぞれ示している。このため、1 合単位の水位を調整するときにはジグザグ部 51b 側を、0.5 合単位で水位を調整するときにはジグザグ部 51a 側をそれぞれ見ながら行うこととなる。すなわち、1 合単位での水位調節も 0.5 合単位での水位調節も、塗りつぶし部 52 のくびれた部分に水面が一致するようにして行うこととなる。塗りつぶし部 52 のくびれた部分は視認性が高いため、いずれの水位を調節する場合であっても容易に行うことができる。

【0039】

なお、上記説明では、本発明の水位目盛を備えた容器が炊飯器の内鍋である場合を例に説明したが、調理に用いる計量カップのほか様々な計量カップに本発明の水位目盛を適用

10

20

30

40

50

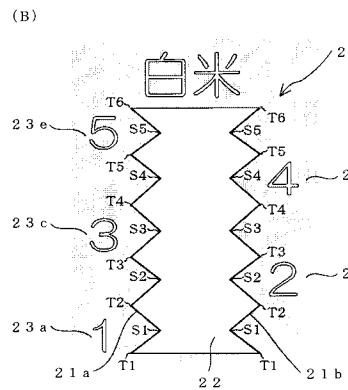
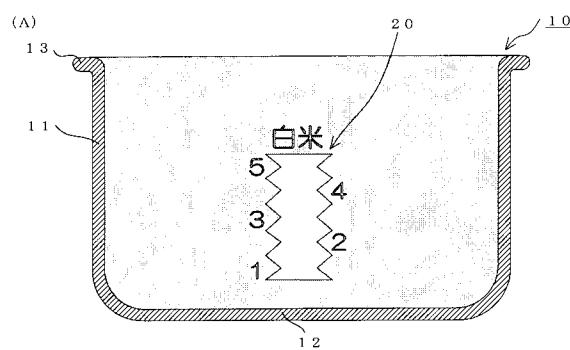
することができ、同様の効果を得ることができる。

【符号の説明】

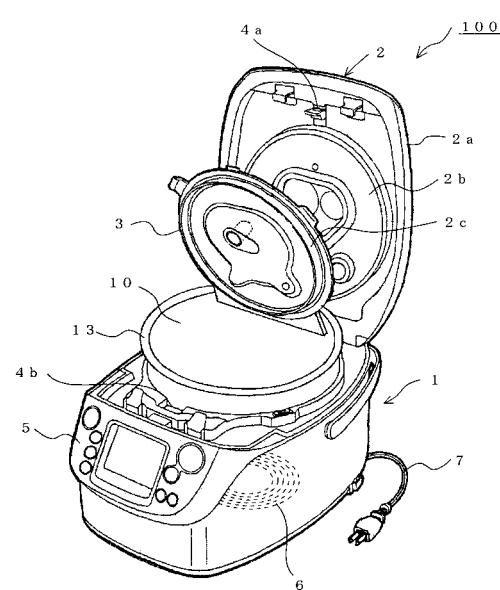
【0040】

1 炊飯器本体、2 蓋体、2 a 上蓋、2 b 中蓋、2 c 内蓋、3 パッキン、4 a 係止片、4 b 係止部、5 操作部、6 誘導加熱コイル、7 電源コード、10 内鍋、11 側面部、12 底面部、13 フランジ、20 水位目盛、21 a、21 b ジグザグ部、22 塗りつぶし部、23 a～23 e 数値表示部、30 水位目盛、31 a、31 b ジグザグ部、32 塗りつぶし部、33 a～33 c 数値表示部、34 a～34 e 直線部、40 水位目盛、41 a、41 b ジグザグ部、43 a～43 c 数値表示部、44 a～44 e 直線部、45 a、45 b 垂直線、46 a、46 b 塗りつぶし部、50 水位目盛、51 a、51 b ジグザグ部、52 塗りつぶし部、53 a～53 k 数値表示部、100 炊飯器、S1～S5 屈曲部、T1～T6 屈曲部、U1～U5 屈曲部、V1～V6 屈曲部。 10

【図1】



【図2】



10 内鍋
11 側面部
12 底面部
13 フランジ
20 水位目盛
21 a、21 b ジグザグ部
22 塗りつぶし部
23 a～23 e 数値表示部
S1～S5 屈曲部
T1～T6 屈曲部

5 操作部
6 誘導加熱コイル
7 電源コード
10 内鍋
13 フランジ
100 炊飯器

1

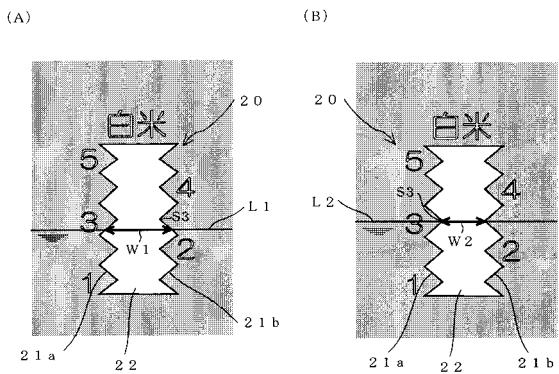
2

3

4 a

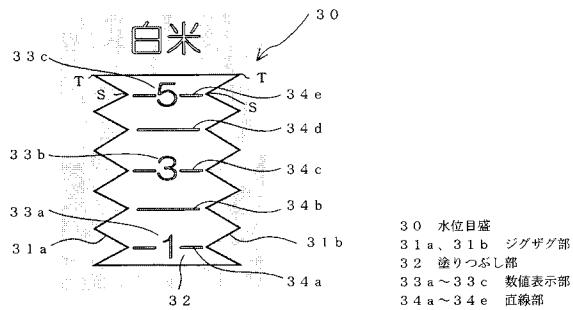
4 b

【図3】



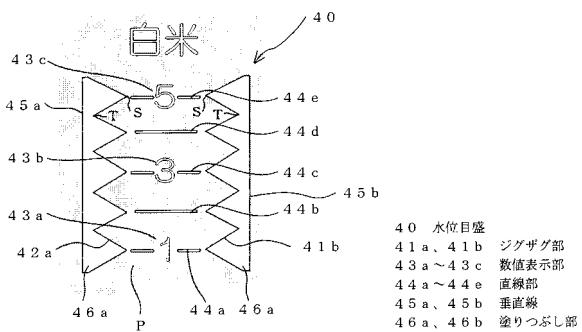
2 0 水位目盛
2 1 a、2 1 b ジグザグ部
2 2 塗りつぶし部
S 3 屈曲部

【図4】



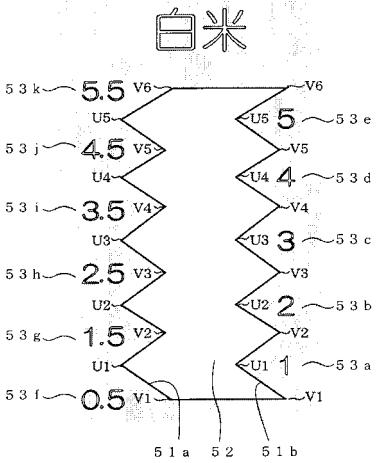
3 0 水位目盛
3 1 a、3 1 b ジグザグ部
3 2 塗りつぶし部
3 3 a～3 3 c 数値表示部
3 4 a～3 4 e 直線部

【図5】



4 0 水位目盛
4 1 a、4 1 b ジグザグ部
4 3 a～4 3 c 数値表示部
4 4 a～4 4 e 直線部
4 5 a、4 5 b 垂直線
4 6 a、4 6 b 塗りつぶし部

【図6】



5 0 水位目盛
5 1 a、5 1 b ジグザグ部
5 2 塗りつぶし部
5 3 a～5 3 k 数値表示部
U 1～U 5 屈曲部
V 1～V 6 屈曲部

フロントページの続き

(72)発明者 荒井 秀文
東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号 三菱電機株式会社内
(72)発明者 久保田 哲正
埼玉県深谷市小前田 1728 番地 1 三菱電機ホーム機器株式会社内

審査官 正木 裕也

(56)参考文献 実開昭 61 - 035130 (JP, U)
特開平 04 - 174614 (JP, A)
登録実用新案第 3032953 (JP, U)
特開 2002 - 010906 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A 47 J 27 / 00